

賀川豊彦と 友愛会・総同盟

期間 2017年 7月6日(木)～12月22日(金) 平日 10:00～17:00

牧師、社会運動家として知られる賀川豊彦(1888～1960)は、1917(大正6)年にアメリカ留学から帰国し、友愛会の活動に加わります。このため2017年は賀川豊彦が友愛会活動へ参加して100年の節目の年。友愛労働歴史館はこれを記念し、賀川豊彦記念松沢資料館との連携・協力の下、企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」を開催して、労働運動家・賀川豊彦を浮き彫りにします。

第1部 賀川豊彦の生涯

1888(明治21)年～1960(昭和35)年

1888(明治21)年に神戸で生まれた賀川豊彦は、キリスト教伝道者・牧師として、労働運動や農民運動、協同組合運動などに取り組みます。第1部では1960(昭和35)年に72歳で死去した賀川豊彦の生涯について、写真やパネルで概観します。



大正13年暮から翌年まで米・欧を旅行。見送りの人達



賀川豊彦(1888～1960)



ロスアンジェルス第一組合教会で講演する賀川豊彦

第2部 日本労働運動の母・賀川豊彦、「賀川イズム」

1917(大正6)年～1921(大正10)年

1917年に友愛会の活動に参加した賀川豊彦は、神戸を拠点に関西労働運動を主導します。賀川の労働運動理論は「賀川イズム」と呼ばれ、当時の労働運動に大きな影響を与えました。このため「日本労働運動の父は鈴木文治、母は賀川豊彦」(西尾末廣)と呼ばれました。第2部では「賀川イズム」と彼の『自由組合論』について解説します。



大正12年・中之島公会堂で賀川豊彦、西尾末廣ら

大正10年 川崎・三菱争議犠牲者の團葬費寫絵葉書



第3部 川崎・三菱争議と賀川豊彦、新たな活動の舞台へ

1921(大正10)年～1960(昭和35)年

1921(大正10)年、日本労働運動史に残る神戸の川崎・三菱両造船所争議が勃発します。賀川豊彦と友愛会・総同盟は全力で闘いますが争議は労働側の敗北で終わり、急進的なグループの台頭を招きます。第3部では労働運動を主導した「賀川イズム」の凋落と、新たな活動の舞台へ進んでいく賀川豊彦について、写真や解説パネルで浮き彫りにします。